

野菜の展望

今月の野菜は、6月から7月にかけての関東以北の曇雨天が様々な形で影響を及ぼすと思われます。関東以西の7月から8月にかけての災害ともいえる猛暑と、地域によっては梅雨期の日照不足の影響に悩む産地もあり、入荷量の確保が難しい品物も散見されます。情報と意思の疎通をはかってまいりたいと思います。

葉茎野菜類の白菜は長野からの入荷です。長野産は高冷地主体に準高冷地も加わり、平年並みの入荷が予想されます。キャベツは長野・群馬産の入荷です。葱は石川産を中心に北海道・青森・埼玉からの入荷ですが、各産地平年に較べて、10日程の生育遅れが散見されています。ほうれん草は岐阜の飛騨高冷地を主体として他に石川産の入荷がありますが、平年に較べて高温早魃の影響から、出荷少なくやや不安定な入荷となります。レタスは長野産準高冷地・高冷地物の入荷、ブロッコリーは北海道産主力に長野産の入荷となり、石川産は下旬からの入荷予定です。

根菜類の大根は北海道産主力に岐阜・青森産の入荷があり、早ければ月末には石川産も加わる見込みです。各産地ともに生育順調で9月上旬頃から数量増の見込みです。人参は北海道産主力の入荷となりますが、北海道産は生育期の曇雨天の影響から極端な小玉傾向でしたが、太物も増えてくる見込みです。蓮根は石川産中心に愛知・茨城産の順調な入荷が見込まれます。甘藷についても石川産を中心として茨城産の入荷となります。里芋は宮崎産を主体に大阪・愛媛産の入荷です。

果菜類の胡瓜は石川・福島・長野・山形産の夏秋作型の入荷に、群馬・石川産のハウス抑制作型が加わり、群馬・石川産は下旬に最盛期を迎えます。茄子類は石川・山形・群馬産主力の入荷となる見込みです。トマトは岐阜産の夏秋作型の入荷があります。夏秋作型は下旬に向けて減少となるものの、石川産のハウス抑制作型が増量する見込みです。ピーマンは長野・北海道産主力に、下旬からは茨城産が加わります。

土物類の馬鈴薯は北海道産の入荷で、本年産の作付けは若干減少していますが、生育が順調であることから順調な入荷が予想されます。玉葱も北海道各産地からの出回となります。大玉中心の順調な入荷予想です。長芋は北海道・青森産ともに平年よりも太物傾向の入荷と見られます。入荷も平年よりやや多めとなりそうです。牛蒡は青森産中心に安定した入荷が見込まれます。

菌茸類の松茸は中国産を主体にカナダ・米国等の諸外国からの輸入物に加えて、中旬からは長野・岐阜等の国産の入荷が予定されています。この時期メインの中国は平年作が見込まれますが、中国からの仕向けが年々韓国など他のアジア地域向に増量され、他の青果物同様、原価も上昇していることから日本への出荷の増量は厳しい見込みです。椎茸は石川産菌床物を中心に長野・富山・徳島産の入荷があり、石川産は中旬より本格的な入荷になると思われます。えのき・なめこ・しめじ類にエリンギ・舞茸等のきのこ類は、全体的に下旬から本格的な量産体制となり、潤沢な出回りで秋の需要期を迎えます。

今年も厳しい気象条件になる可能性もありますが、石川産については、果菜類の抑制作型が増量し、甘藷・蓮根といった加賀野菜も順調な入荷となります。食欲の秋、味覚の秋や産地フェアを訴求した各種企画立案による拡販をお願いいたします。

《野菜第三部部長 杉本智則》

果実の展望

秋果実の本格的な出荷時期を迎えましたが、日本列島全域が温暖化の影響を受けており、今月は果実全般において夏果実同様、前進出荷が予想されます。

温室みかんは愛知・佐賀産の入荷がありますが、各産地共に生産量が少なく、中旬に入荷終了予定です。少加温（グリーンハウス）は愛知産主力に佐賀産の入荷となります。露地みかんは中旬以降より宮崎・佐賀・和歌山・福岡産が順次入荷スタートしますが、高温干ばつの影響を受けているため小玉傾向になります。

梨はJA金沢市・JA松任・JA加賀と県内産主力の入荷となります。上旬は幸水・豊水・二十世紀、中旬からあきづき・南水等の入荷予定で、平年並みの出荷が予想されます。

ぶどうは各地から多品種の入荷があります。長野・山梨産を主力とした巨峰を中心に、岡山産や山梨産のシャインマスカット・G.ピオーネ・甲斐路・ロザリオ、山形産のデラウェア等の入荷となりますが、巨峰を中心とした色付きぶどうは、夏場の高温の影響により着色遅れが予想されます。石川産については、G巨峰・ルビーロマンなどの入荷があり、ルビーロマンは前年並みの入荷が予想され、徐々に減少しますが、今月一杯の入荷が見込まれます。りんごは長野産のサンつがるの入荷がありますが、高温の影響を受けており、着色の遅れ等が見られます。

柿は中旬より福岡・和歌山・岐阜産の入荷が始まり、西村・伊豆・平核無・筆柿といった多品種の入荷となります。

瓜類は静岡産主力に山形・茨城産アールスメロンの入荷です。静岡産は生産者数の減少により、前年より入荷量は減少します。また、中旬より秋作の石川アールスが6玉中心でスタートします。

いちじくは愛知産の露地物主力に、宝達志水町産の地物の露地物が加わります。

栗は石川・岐阜・愛媛・茨城からの出回りとなります。出始めは小玉傾向と見られますが、入荷量は年々減少傾向です。

輸入果実では、バナナはフィリピンの干ばつの影響から輸入量の減少となりますが、南米産は順調な入荷です。オレンジはオーストラリア産ネーブルと南アフリカ産バレンシアを中心として安定した入荷となります。グレープフルーツは南アフリカ産のスタールビー種・ホワイト種の入荷で前年並みの入荷となります。レモンも同様にチリ産が前年並みの入荷見込みです。パイナップルはゴールデン・スウィーティオともに干ばつにより大玉サイズは減少となります。ハネジューメロンはカリフォルニア産の入荷です。また、季節商材としてはカリフォルニア産ザクロや中国・韓国産生むき栗が出回ります。他にもアメリカ産ぶどう等のトロピカルフルーツの入荷も予定されています。

食欲の秋を迎えて食卓に多くの果物が並ぶよう今月も御協力の程お願い申し上げます。

《果実部部長 荒木 智》